

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900082		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい		
事業所名	グループホーム いこいの華 B棟		
所在地	〒029-3105 岩手県一関市花泉町花泉字地平21-8		
自己評価作成日	令和4年8月3日	評価結果市町村受理日	令和4年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『信頼・親身・進取』を社是としており、この言葉通り入居者様に信頼される存在、笑顔で寄り添う介護、自ら進んで対応に当たるよう職員一人一人が自覚を持って仕事をしております。入居者様一人ひとりと向き合い、その方の望まれる生活、やりがいをもつ楽しみ、不安なく、その人らしく生活できるよう日々寄り添いながら暮らしていただいています。また、コロナ禍で家族様に会えない時期が続いてますが、不安なく過ごしてもらおう、日々のレクリエーション、行事に工夫をし楽しんでいただけるようにしております。家族様にも、電話や通院時に最近の状態を報告し、少しでも安心していただけるよう情報は早めに伝えるようにしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年8月30日

周辺に田や畑が広がり、新興住宅に囲まれた閑静な場所に位置している。A棟・B棟合わせて18名が入居しており、L字型の棟内は往来が自由であるが、現在は感染防止のため通路は止めてある。看取りに対して、医療機関との協力関係の構築と相俟って、職員の「利用者最後まで関わってほしい」との姿勢が初めての看取りの経験に繋がり、今春、看取りされた家族の方から「この施設で良かった」と感謝されている。コロナ禍で地域とのつきあいや外出の機会は減っているが、利用者の希望に応じ施設周辺の散歩やドライブでの車窓から景色を楽しんでいる。室内でのレクリエーションも、職員のアイデアで大運動会を行い、競争心と声援溢れる楽しい一日を過ごしている。コロナ禍の終息により、地域の方々も参加する認知症カフェや近くの高校生のボランティアによるふれあいの場の一日も早い復活が待たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関に掲げており、誰もが目に触れる場所に掲示しております。また、毎朝、『社是』を唱和し、理念の意味や、意義を考え、実践につなげております。	法人の社是を礎に、年度の始めに昨年度の反省も含めて事業所の努力目標を職員で話し合い、実施計画を作成している。今年度は「レクレーションを利用者と一緒に楽しむ。時間に追われた仕事は利用者の生活の乱れにつながる。面会制限の中、利用者と家族と円滑な連絡」掲げ取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、現在直接入居者様と地域との交流は行ってはいたないが、地域の文化祭等に作品を展示していただいております。	コロナ禍前は子供会との触れ合い、近くの高校生と一緒にバーベキューやお茶会などを楽しんできたが、外出制限が続く中で散歩時に地域の方や高校生と交わす挨拶が楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症カフェを月1回開催してましたが、コロナ禍の為中止してました。今後、花泉町内3施設のグループホームと包括一緒に認知症カフェの開催を予定しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議は書面のみとなっており、施設の状況をお伝えしております。事前に委員の方々には、意見、要望をお伺いしており、電話で返答後、書面にて記載しております。	コロナ禍により、書面開催を余儀なくされているが、委員の方とは、書面の手交時や電話などで近況を直接お伝えし意見などを聞いている。得られた委員からの意見は、職員会議に諮ったり法人本部へ報告し、施設の運営に活かされる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で施設内状況をお知らせしています。また、認知症カフェを行ってましたが、コロナ禍で施設単体としては行わず、包括を主体に花泉にあるグループホームで今後認知症カフェ開催を目指しています。	運営推進会議委員の地域包括支援センターの職員とは、情報交換や様々な指導を通じて、良き理解者としての関係性を有している。行政に確認を要する家族からの問い合わせなどは、町の担当者から指導を得て対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所前に身体拘束を行わないよう、代替のケアを考えていく事をお伝えしています。また、身体拘束による弊害も説明しております。万が一命の危険、他者への危険行為が認められる場合は、その都度、家族様と相談し、適切なケアを考えていくよう話し合っております。	身体拘束廃止適正委員会は職員会議の中で兼ねて行い、同委員会における内容は運営推進会議の資料にも載せている。帰宅願望の強い利用者があり、職員の目を盗んで外出し転んで怪我をしたという事象が以前あったが、拘束することなく注意深く見守っている。スピーチロックと思われる事象には職員相互に注意し合ったり管理者を介すなどして、時間を置かない対応に心掛けている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議で研修を行っております。また、外部研修にも職員参加し、職員会議などで、研修報告し、職員全員で周知しております。また、虐待、拘束する事による弊害を学び、拘束、虐待をしないよう代替案を検討しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、外部研修には職員参加させており、職員会議でも内部研修を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関し、変更があった場合は、お手紙で内容をお知らせし、分からない事があれば、口頭説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議資料を家族様にお渡しし、施設の状態をわかるようにしている。また、通院時、面会時、電話で最近の入居者様の状態をお話しし、家族様のご意見や要望を伺うようにしています。	家族からは「職員の対応が良く安心して暮らせる施設」と評判が良い。コロナ禍で窓越しの面会などが続き、利用者の日常についての家族の心配やお願い事が多くあるため、その日の小さな出来事も家族へ電話で知らせている。遠方の家族には、電話のみで健康面や暮らしぶりをお知らせしている。定期的に発行している家族通信は、大変喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	声を掛けたり、掛けやすい環境を作り、話しやすい環境を作るようにしています。	職員の意見は管理者の年2回の個人面談や職員会議など何でも話せる職場風土が出来ている。職員の意見から昇降式ベッド、リクライニング椅子、エアーマットなどを導入し、利用者が快適に暮らせるように改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を付けていただき、個々に面談も行っております。悩みや、意見を聞き、一人ひとりで働きやすい環境が整うよう整備しております。		

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内で、職員研修として、職員の交換研修を行っています。同じグループホームでも、違う経験を積み、事業所に戻った際は、経験を活かしてさらなる職場改革がなされるよう取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外の研修に参加させ、職員会議で研修報告を行い、全職員で研修内容を理解するようにしております。しかし、コロナ禍で研修自体少なくなったり、オンラインでの学習となり、他事業所との交流が少なくなっています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人や、ご家族の困りごとを伺い、入居後は、本人の動き、言動、状態を観察し、言葉では伝えられない感情を読み取り、職員と入居者様の良い関係が形成できるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時点で、困り事を記入していただき、調査の段階で詳しい内容を伺うようにしております。入所の際は、施設でできる事、できない事も説明し、理解していただいた上で、家族様への支援も考えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時点でグループホームの特徴を説明し、その方への支援として合っているのか話、その他の施設、対応等も説明するよう心がけております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の持った能力を最大限に発揮できるよう、生活の中にその方の役割を導入する事しております。また、入居者様同志、支える存在として思いやる姿も垣間見れます。その際、職員は邪魔にならないよう見守りを行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設や、家族様寄りの支援にならないよう、本人も含めた支援を考えるようにしている。その為に、家族様にも協力していただき、通院や、自宅への一時帰宅をお願いしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍になる前は、自宅に行かれたり、面会は直接会えたりしていたが、現在は、通院のみの往復、面会は窓越しでしか会えない状態が続いています。去年より、オンライン面会もしており、遠方の方と画面で会話できるよう工夫は行っております。また、YouTube等で、自宅地域の画像を見ていただいて懐かしんで頂いています。	利用者の年齢が嵩むにつれ身近のものが馴染みになってきており、定期的に訪れる訪問理容の方や隣のユニットの利用者との会話を楽しんだり、馴染みの美容院へ出掛けることを楽しみにしている利用者もいる。ドライブに出掛けた時には、懐かしい馴染みの場所へ寄り道をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士助け合う姿があり、職員は出来るだけ、介入せず、見守りを行うようにしております。問題がある際は間に職員が入り、お互い関係が悪化しないよう早めに対応するようにしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、困りごとや、必要な情報があれば、いつでも連絡いただけるよう、お声掛けはしております。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成するにあたり、本人の意向を聞き取り、出来るだけ、プランに反映できるよう心がけております。また、自分の口から中々意向が確認できない方には、家族様に伺い、その方に合ったプランと一緒に考えるよう行っております。	大部分の利用者は言葉で思いを話すことができるが、細やかな思いは表情や手振り、指手の動きから感じ取っている。「具合はどうですか」「痛いところはありませんか」など、優しい声掛けでコミュニケーションを図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、家族様、本人に生活歴を伺い、趣味趣向、性格を聞き取り、入居前の情報をサービス利用担当者様に伺うようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、申し送りノートを毎日確認し、変化には職員全員が把握するようにしております。また、朝礼、終礼時にも注意が必要な方の情報は、口頭で周知するようにし、対応を統一して関わるようにしております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が事前に家族様と、本人に要望を伺い、それを元に、毎月職員会議で意見や、問題点を出し合いケアプランに反映させております。	利用者が安心して生活していくため、ケアケース記録や利用者の留意点などが記録された業務日誌を活用し日々のケアに努めている。ケアプランは職員会議などで皆の意見を聞きながら6か月毎に見直すこととしており、見直す場合は家族の同意を得た上でやっている。緊急性がある場合はその都度見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に日々の暮らし方を入力し、変化があった方は申し送りノートも活用し、周知している。状態が変わった場合は、職員会議で情報を共有し対応を考えて決めます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態が変わったり、家族様の体調が悪く通院が今後難しくなる方には訪問診療を紹介しております。また、福祉用具を活用し、快適な生活が送れるようその都度検討しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、地域の文化祭や、花泉互一に出かけた一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皮膚科や歯医者、内科と訪問診療を受けている方もおり、入所当時から変わらず、馴染みの病院に行かれてる方もおります。その方の状態に合わせた受診を家族様と入居者様一緒に考えて適正な通院が出来るよう支援しております。	入居後にかかりつけ医を変更する場合は、本人と家族に相談し決めている。現在は半数以上の利用者は訪問診療に変更して受診している。処方箋の薬は薬局から直接届けられており、家族からも感謝されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1か月に2回訪問看護が来てくださり、事前に相談内容をFAXで送り、当日入居者様お一人ずつお話を聞いてくださいます。また、訪問診療を受けている方は、連携として、気になる症状を先生に伝えて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった際は、暮らしのシート、施設での生活状況を速やかにお渡ししております。退院調整として、病院の相談員さんと電話で施設で可能な食事形態や、支援をお伝えし、退院に向けて施設も整えるようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関し、契約時に別紙として指針を説明しております。また、家族様と入居者様の気持ちをその都度確認しながら、終末期に向けて職員一同一丸となってその方の希望通りに進められるよう取り組んでおります。	重度化や、看取りに関する指針は整備されている。訪問看護ステーションとの連携により、今春、初めて看取りを経験した。家族の相談に始まり職員の勉強会を経て、職員一丸となって取り組んでいる。職員は看取り後の振り返りを踏まえ、今後に向け自信を持ちながら更にスキルアップに努めるとしている。家族からは、この施設で最期を迎えられたことに感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒、熱発があった方は、家族様に報告、その後の状態観察を行い、悪化が見られ次第、家族様に連絡し通院を行う。急変時は、バイタル測定、意識の有無、救急車要請が必要か、その時の状況判断が出来るよう指導しております。判断しかねる場合は、管理者に電話でその都度確認するようしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、以前は地域の方にも協力を頂いてましたが、コロナ禍の為、職員と消防のみで行ってます。いろいろな災害を想定し、職員会議で話し合う機会を設けてます。	年2回避難訓練を計画し、6月にB棟を火元に想定にした訓練を行い、10月には夜間を想定した訓練を計画している。異常事態が発生した場合には、警備会社に自動通報されるとともに、会社内の連絡網で応援体制も動き出す。ハザードマップでは浸水区域に該当していない。備蓄品は食品類、衛生用品などで、定期的に在庫管理を行っている。	秋の避難訓練の夜間想定の際、18名の一時的避難場所、避難経路の夜間照明の明暗などを把握し、避難マニュアルに追加して万全の体制をとることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛け、言葉遣いは、入居者様一人ひとりに合わせた、声掛け、大きさ、速度を心がけるようにしております。	利用者には声の大きさや速さに配慮しながら接しており、大部分の利用者は自分の意思を声や仕草で伝えることができる。人生の大先輩に敬意を表すため、声掛けは「さん」付けとし、居室前では必ずノックをし了解を得てから入室している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、その都度、希望を伺うようにしています。一人ひとり性格が違うため、皆の前では自分の考えを言えない方には、個別に聞き取りをし、その方の希望に添えるようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態、気持ちに応じた過ごし方をいただいています。職員の押しつけとならないよう、個別に声をかけ、自分でその日の過ごし方が決められるよう、支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣替えしており、季節に合った服装を声がけております。また、朝は身だしなみを整えてから、ホールに向かうよう援助しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は職員が行いますが、片付けは一緒に行うようにしております。また、以前はドライブ後、外食を行っていましたが、中々出歩く事が出来なくなったため、月1回はラーメンを頼んだり、お寿司を購入したりし、食事を楽しめるようにしております。	朝食はA棟がごはん、B棟がおかゆ、みそ汁を、各ユニットの職員が作っている。食材は、定期的に法人の給食部から配送され、それを利用者毎に、食べやすいキザミ、とろみ等にして提供している。食前、食後のテーブル拭きなど利用者のできる範囲で体を動かすようにしている。おやつのだら焼き作りには、男性の利用者も喜んで参加している。秋の干柿作りは、利用者の楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別対応として、食事介助を行い、その方に合った食事形態でお出ししています。必要に応じて、摂取量を個別に記録し、主治医からアドバイスを頂けるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた道具を使用していただき、磨き直しが必要な方には、職員が磨き直しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、その方に合ったペースでトイレ誘導しております。病気の為、排泄が間に合わない方もおりますが、定時誘導し、速やかにパット交換をし、できるだけ肌への負担を減らすよう心がけてます。	日中のトイレ使用は状況を確認しながら、やさしく声掛けを行い介助している。夜間ポータブル利用は3名で、その他の利用者にはトイレの利用を促している。布パンは2名で、入居時より現状を維持している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や、体操、散歩等行い、定期的に排便が出るよう取り組んでおります。また、訪問看護の際、マッサージなどを教わっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にあった支援をしている	入浴は基本、月、水、金、土となっており、通院や体調不良の方がいれば、曜日を変更し対応しております。また、曜日に関係なく、汚染が酷い場合は、シャワー浴を行い、清潔に過ごしていただけるようにしております。	週2回以上の午前入浴を基本とし、浴槽は個浴で一般家庭で使用しているものに近く違和感を感じさせない。職員は、すり傷などの変化が無いかを確認し、利用者とのゆとり話ができる大切な時間帯としている。利用者の体調や希望に応じ、入浴の回数、時間は臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた時間で休んで頂いてます。夜間寝れない人がいた際は、ホールで過ごしていただき、眠くなれば休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の内容を職員把握し、変更があった際は、申し送りノートに記入し周知しております。また、服薬の際は間違えのないよう、職員二人で確認を行ってからのんでいただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせた仕事をお願いしております。庭の剪定や草取りが得意の方には、外の庭の手入れを一緒に行ったり、料理が得意だった方には、片付けや、おやつ作りを手伝ってもらったりしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所当時から馴染みの美容院に行かれています。定期的には職員から声掛けし出かけています。以前は自宅に定期的に寄ったりしていた方も居ましたが、現在コロナ禍の為、あまり自宅や馴染みの所に出かけられる機会がなくなりました。時期を検討しながら、また出かけられる機会を作っていきたいと思っております。	コロナ禍で外出が制限されている中、感染対策をしっかり講じながら、春には施設の近くにある桜の木の下で花見をしたり、季節に応じて、紅葉、牡丹、紫陽花の鑑賞にドライブに出掛けている。日頃から天気の良い日には、施設周辺を散歩したり花壇の手入れをしたりと、外気に触れる機会を多くするよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設預かりで管理しております。欲しい物や、必要物品は職員が買い物に出かけた際購入してきます。コロナ禍で入居者様は出歩くことが難しくなりましたが、馴染みの美容院に定期的に施設で送迎している方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙のやり取りは行ってませんが、贈り物や手紙が来た際は、その都度電話し、会話できる方は会話をさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、トイレ、浴室は衛生面に気をつけ、常にきれいに保つようしています。廊下や、居室、ホールは、季節に合わせた飾りをつけ、見た目でも今の季節がわかるよう工夫しております。また、温度や、匂い、音など不快にならないよう気をつけております。	床暖房の広々としたホールと居室のある廊下は死角がなく利用者の動きが良く見える。ホール及び廊下の壁には職員と利用者合作の紙細工などが飾られ季節感を感じる。ホールの一角には畳敷きの小上がりがあり、利用者が洗濯物をたたむ姿も見られる。コロナ禍以降利用者がホールで過ごす時間が多くなり、職員は利用者を笑顔にしようと寅年にちなんで張子の大きな虎を利用者と一緒に作ったり、運動不足解消にと大運動会を企画し利用者のチアガールも飛び出すなど、ホールは皆で楽しい一日を過ごす舞台となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに小上がりがあり、そこで、洗濯たたみをしてながら、会話を楽しめたり、一緒にシーツたたみを行ってます。居室で休みたい方は、自由に居室で過ごしていただき、皆と過ごすことを強要せず、その方にあった生活をしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や、お手紙をお部屋に飾り、いつでも眺められるようにしております。また、自宅から持ってきた大事な置物や、側に置いておきたいものを側に飾って頂いております。	八畳ほどの居室にはベッド、エアコン、丸テーブル、椅子、押し入れが備わっていて、思い出の品や家族写真を飾り、それぞれ過ごしやすく工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差付近に赤いテープで目印をしたり、ぶつかりそうな場所には敢えて障害物を置き、目で確認でき、自分で回避できるよう工夫しております。過干渉にならず、自分でできる事はできるだけ継続して行えるようにしております。		